

野村証券
 ファイデューシャリー・マネジメント部
 木須 貴司

確定拠出年金専用ファンドの動向(2021年9月)

2021年度第2四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は8兆8,433億円となりました。国内株式、マルチアセットの上昇と資金流入により、残高は増加しました。収益率をみると、内外債券、不動産はマイナスとなったものの、国内株式、海外株式、マルチアセットはプラスとなりました。資金流入をみると、確定拠出年金専用ファンド全体に当四半期で1,667億円が流入しています。資産クラス別では、マルチアセットへの資金流入が最も多く、703億円が流入しました。

確定拠出年金専用ファンドの残高

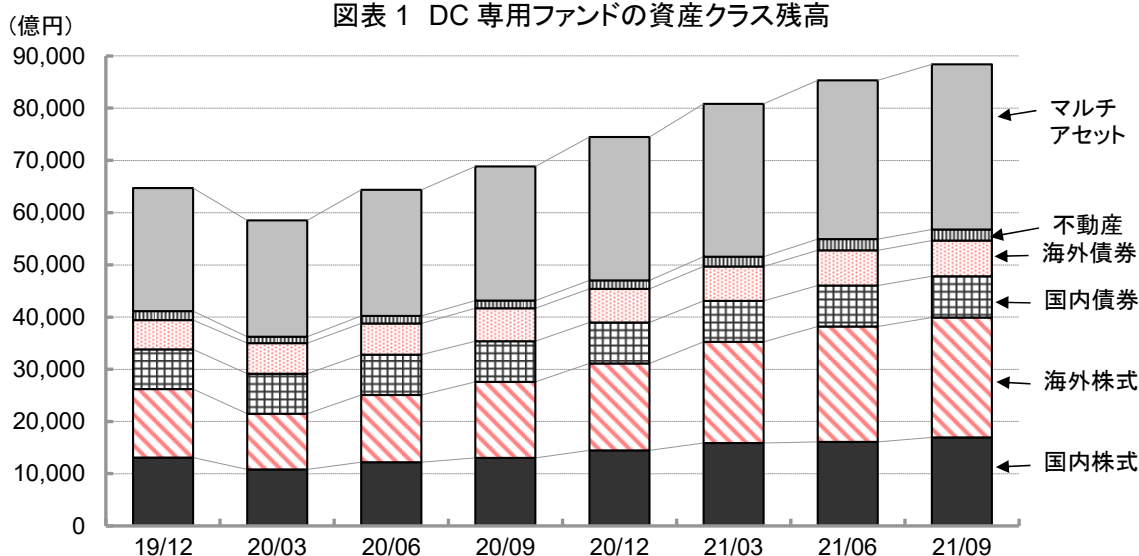
2021年度第2四半期(7月~9月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信の残高は8兆8,433億円と、国内株式を中心とした基準価格の上昇と資金流入により、前四半期から4%程度、1年前と比べて28%増加しました(図表1)。

すべての資産の残高が前四半期末から増加

し、最も増加率が高かったのは国内株式の5.7%でした。次に増加率が高かったのは、マルチアセットで3.8%増加しました。

資産クラス別残高構成をみてみると、マルチアセット型の割合が引き続き最も高く、全体の35.7%を占めています。マルチアセット型の中では、主に資産配分が固定されているバランス型

図表1 DC専用ファンドの資産クラス残高



出所)NRI Fundmarkより野村証券ファイデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

が中心となっていますが、ターゲットイヤー型の伸び率は引き続き高く、当四半期の増加率は16.2%となっています(前四半期の増加率は11.9%)。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ45.1%、16.7%となり、前四半期と比べて、前者は0.4%増加、後者は0.4%低下しました。債券ファンドの時価が減少したためです。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型

と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、28.2%と、前四半期に比べ0.1%増加しています。国内株式が海外株式と比べて高い上昇率となったためです。

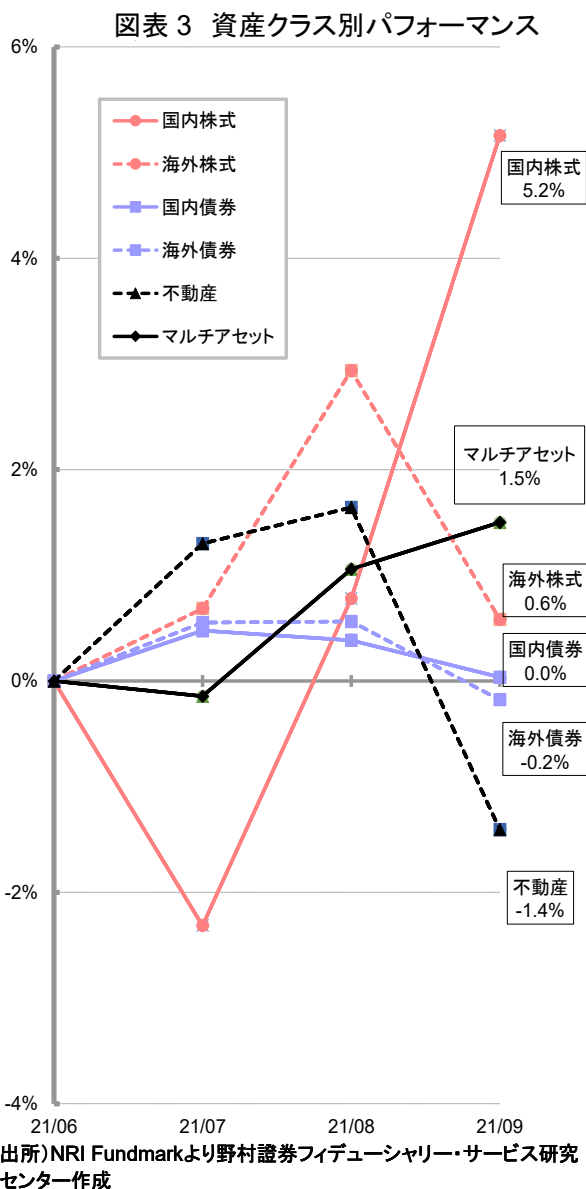
さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は77.0%となり、前四半期から0.1%増加しました。ただし、1年前の同時期と比べるとパッシブ比率は0.3%低下しています。

図表2 DC専用ファンドの資産クラス別残高(億円)

	19/12	20/03	20/06	20/09	20/12	21/03	21/06	21/09
国内株式	13,113	10,808	12,224	13,026	14,478	15,899	16,064	16,984
アクティブ運用	4,755	3,814	4,331	4,719	5,296	5,786	5,845	6,169
パッシブ運用	8,358	6,994	7,893	8,307	9,182	10,113	10,219	10,814
海外株式	13,104	10,688	12,871	14,569	16,625	19,356	22,108	22,919
アクティブ運用	2,681	2,218	2,721	3,101	3,579	4,104	4,667	4,759
パッシブ運用	10,423	8,470	10,150	11,468	13,046	15,252	17,441	18,160
国内債券	7,615	7,643	7,688	7,777	7,888	7,865	7,893	7,937
アクティブ運用	1,008	1,003	1,002	1,013	1,022	1,018	1,019	1,023
パッシブ運用	6,606	6,640	6,686	6,764	6,866	6,846	6,874	6,915
海外債券	5,607	5,837	6,017	6,288	6,422	6,563	6,735	6,824
アクティブ運用	584	587	605	624	632	636	641	642
パッシブ運用	5,023	5,250	5,412	5,664	5,790	5,927	6,094	6,182
不動産	1,690	1,229	1,424	1,499	1,616	1,895	2,122	2,120
マルチアセット	23,573	22,344	24,140	25,684	27,458	29,245	30,438	31,606
バランス型	19,810	18,626	20,067	21,361	22,874	24,396	25,330	26,211
ターゲットイヤー型	474	460	554	620	679	768	860	999
アセットアロケーション型	3,289	3,258	3,520	3,703	3,906	4,081	4,249	4,395
その他	44	43	47	46	46	47	47	43
残高合計	64,746	58,592	64,410	68,888	74,534	80,868	85,408	88,433
残高割合								
国内株式	20.3%	18.4%	19.0%	18.9%	19.4%	19.7%	18.8%	19.2%
海外株式	20.2%	18.2%	20.0%	21.1%	22.3%	23.9%	25.9%	25.9%
国内債券	11.8%	13.0%	11.9%	11.3%	10.6%	9.7%	9.2%	9.0%
海外債券	8.7%	10.0%	9.3%	9.1%	8.6%	8.1%	7.9%	7.7%
不動産	2.6%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%	2.3%	2.5%	2.4%
マルチアセット	36.4%	38.1%	37.5%	37.3%	36.8%	36.2%	35.6%	35.7%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。



分類別パフォーマンスの推移

図表3は2021年度第2四半期におけるファンド資産クラス別累積投資収益率の推移です。7-8月まではコロナ禍後の世界経済の回復に対する期待が高まり、リスク性資産は上昇しました。しかし、9月に世界全体では、米国のテーパリングに対する警戒感の高まりや中国の不動産大手のデフォルトの懸念などにより、株式、不動産が下落しました。債券の金利も内外いずれも上昇しました。その結果、海外株式の収益率はほぼ横ばいの0.6%となりました。国内債券は0.0%、海外債券は-0.2%、不動産は-1.4%となりました。国内株式は菅首相の辞職表明などをきっかけに大きく上昇し、今四半期5.2%と相対的に高い収益率となりました。マルチアセットも国内資産にやや偏りがあるため、プラス収益(1.5%)となりました。

また、今四半期は海外株式ではアクティブファンドの収益率の平均がパッシブファンドの収益率の平均を下回りました。今四半期はグロース(成長)株運用戦略などが不調だったためと考えられます。一方、国内株式ではアクティブファンドの収益率がパッシブファンドの収益率を上回りましたが、DC向けの国内株式パッシブファンドは日経225をベンチマークとするものが多く、日経225が今四半期はTOPIXを2%程度下回る成績だったためです。

図表4 DC専用ファンドの資産クラス別資金純流入額(億円)

	20/07~ 20/09	20/10~ 20/12	21/01~ 21/03	21/04~ 21/06	21/07~ 21/09
国内株式	42	-96	137	187	105
海外株式	434	256	711	1,075	688
国内債券	78	112	9	6	42
海外債券	161	90	84	92	100
不動産	22	30	46	68	29
マルチアセット	548	436	532	658	703
資金純流入合計	1,287	829	1,518	2,087	1,667

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

分類別資金純流入額の推移

図表4は、2020年度第2四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額－解約額)の推移を表したものです。

当四半期の純流入額は前年同期(前年度の第4四半期)に比べると380億円増加し、1,667億円となりました。最も資金流入額が大きかったのはマルチアセットで703億円と前年度の第2四半期の資金流入額を548億円上回りました。特にターゲットイヤー型は、前年同期と比べて資金流入額が136.7%と2倍以上になっています。

DC専用ファンドのESG商品

DCにおいても近年、ESGファンドの提供が始まっており、2021年9月末時点で、DC専用ファンド・DC併用ファンド合わせて少なくとも30商品が提供されています。うち6商品ほどがESG指数との連動を目指すパッシブファンド、それ以外がアクティブ運用となっています。国内株式・外国株式が中心ですが、ESGバランスファンドも提供されています。

DC専用ファンドのESG商品の資産残高は、2021年9月末時点で352億円と1年前の2020年9月末と比べて61.5%増となっています。パフォーマンスは商品ごとにまちまちですが、DC加入者が今後どのようにESGに取り組んでいくか、動向が注目されます。

— 次号のお知らせ —

次号は

11月8日(月)

発行予定です。

野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込)(20万円以下の場合、2,808円(税込))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

弊誌の記事はバックナンバーも含めて野村年金マネジメント研究会のホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所

発行:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター(野村年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2

アーバンネット大手町ビル

TEL: 03 (6703) 3991 FAX: 03 (6703) 3981

Email: nenkin@jp.nomura.com

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。